

# 戦前・戦中・戦後を生き抜いた 奇跡の船の物語



1930(昭和5)年、見習い調理員として氷川丸に乗り込んだ平山次郎13歳。船での仕事は厳しかったが、仲間たちは、次郎を親身になって見守ってくれた。ある日、包丁で指を切った次郎は、診療室で看護婦の勉強中だというキヨ子と出会い、淡い恋心を抱く。

1941(昭和16)年、氷川丸は政府の徴用船となり、その後、海軍特設病院船となった。次郎ら乗船命令を受けた船員たちは、南方の島々で傷病兵収容の仕事に携わる。そして、次郎にも赤紙が。次郎は島の野戦病院で思いがけずキヨ子と再会。彼女は、日本赤十字社の看護婦となっていた。次郎たち負傷兵が移された病院船は、氷川丸だった。懐かしいかつての仲間の顔もあった。やがて終戦となり――。

大賀 俊二 監督

1956年11月22日生まれ。東京ムービーを中心に数多くの作品でテレビアニメ演出やアニメ映画監督を務める。主な代表作に「それいけ!アンパンマン」劇場版監督(1999、2001、2002年)及びOVAシリーズ、「ゴルゴ13」(2008・2009年テレビアニメ版)などがある。

## 世代を超えて愛されてきた氷川丸

横浜、山下公園に係留されている「氷川丸」は、今年国の重要文化財に指定されます。1930年(昭和5年)に横浜で産声をあげ、2015年に85歳を迎えました。戦前の大型貨客船としては世界で唯一現存する歴史の証人です。外国航路の豪華貨客船として誕生後、戦時中は病院船となり幾多の戦火のなか奇跡的な生還を遂げ、終戦後は引揚船として多くの命を助けました。そして再び豪華貨客船として活躍。想像を絶する幾つもの荒波をこえた氷川丸、そして、ともに強く生きた人々から私たちは平和の尊さを感じることでしょう。

©氷川丸ものがたり製作委員会

## 長編アニメーション映画 氷川丸ものがたり

形式：長編アニメーション映画  
90分 ビスタサイズ  
製作：氷川丸ものがたり製作委員会/  
虫プロダクション/かまくら春秋社  
原作：「氷川丸ものがたり」  
著・伊藤玄二郎(かまくら春秋社)  
アニメーション制作：虫プロダクション  
製作協力：全日本海員組合  
：星槎グループ  
資料協力：日本郵船歴史博物館

挿入歌 故郷と向き合わせる  
「われは海の子」「おぼろ月夜」



「氷川丸ものがたり」は、焦土と化し、荒廃した祖国の、そして次郎をはじめ多くの日本人の、未来への夢と希望、そして、平和へのメッセージを伝えます。そしてまた、挿入された唱歌「われは海の子」「おぼろ月夜」を介して、いま、わたしたちは故国、そしてふるさとと、どのように向き合っていくべきなのか、考えるきっかけを与えてくれます。

推薦：日本PTA全国協議会  
公益社団法人日本医師会  
日本赤十字社  
神奈川県

2016年 **10月29日 土** 14:30～ (14:00開場)

ミニトーク◆伊藤玄二郎(『氷川丸ものがたり』原作者)

会場◆横浜市立大学金沢八景キャンパス YCU スクエア(2F)

主催◆公益財団法人 横浜学術教育振興財団 <https://www.hamakko.or.jp/~yokogaku/>

問い合わせ◆財団事務局 045-787-2396 yokogaku@hamakko.or.jp(担当:丸茂)

**入場無料**

(先着300名)

どなたでも参加できます